

人はいつ頃に初恋を体験するのだろうか。私の場合は幼稚園の女の先生になるのか、それとも和子姉さんか。どちらも憧れの人であった。中学時代の同級生に惚れっぽい男がいた。廊下ですれ違う独身の女の先生や、運動場でゴム飛びをしている下級生にもすぐに惚れた。

同級生は「こんだちのがほんなこての初恋たい。いままでの初恋は嘘らん気、嘘ごたい」と言った。いままでの恋は嘘、

いまの恋が真正銘の初恋だという。そして、1週間もすると違う女の人に惚れていた。多感といえは多感、移り気といえは移り気。同級生は「初恋の味はカルピスっていうばってん、違う。初恋の味は脱脂粉乳の味だ」とも言った。私たちの時代

偶然に知り合い、周囲に猛反対された2人は雪山で心中をす。純愛のままであった。それを聞いたチンピラの兄貴分が「ばかやろう」とうれしそうに言った。吉永小百合が歌う主題歌「泥だらけの純情」がヒットした。

満州から引き揚げて来て、兄の家へ厄介になってくる学生が木譲であった。学生は苦学をして東大に入るが、深窓の令嬢は病死する。私はどちらかというと「故郷は緑なりき」が好きだった。松浦の親戚には満州からの引

初恋はどんな味か

完全に給食制度になった。主食はコッペパンである。おかずは芋かかぼちゃの煮つけがし。それに脱脂ミルク。

浜田光夫もよかった。東映映画では「故郷は緑なりき」があった。深窓の令嬢が佐久間良子で、

揚者も多かった。また、炭鉱にも引揚者が多かった。佐世保に着いた引揚者が、その足で北海

道へ渡った話も知っている。故郷にも寄らずにである。騙された人は、また騙される。星鹿の少年時代は漫画の回し読みが行っていた。「本が汚れる」といって、見せながらいい家の柄の奴もいた。ろくな奴ではない。

柔道物の「イガグリくん」、山川惣治の「少年ケニヤ」。女の子が読む「少女ブック」の表紙は鰐淵晴子さんと松島トモ子さんが飾っていた。後に、鰐淵晴子さんとは「天使が微笑んだ男―森永太郎伝―」で一緒に

映画も純愛物語が流行っていた。日活映画「泥だらけの純情」は、深窓の令嬢と下町のチンピラとの純愛物語である。



おかべ・こうだい 1979年に「肥前松浦兄妹心中」で岸田戯曲賞を、89年に「亜也子」で紀伊國屋演劇賞個人賞を受賞。日本劇作家協会元理事。松浦市で毎年、子供たちにミュージカルを指導している。川崎市在住。70歳。

(松浦市出身)